

女性が活躍するために 私たちができること

山下クラス 2班

目次

1

社会の現状

2

女性の活躍についての意見

3

女性、男性、世間の視点からの
女性の活躍の見える方

4

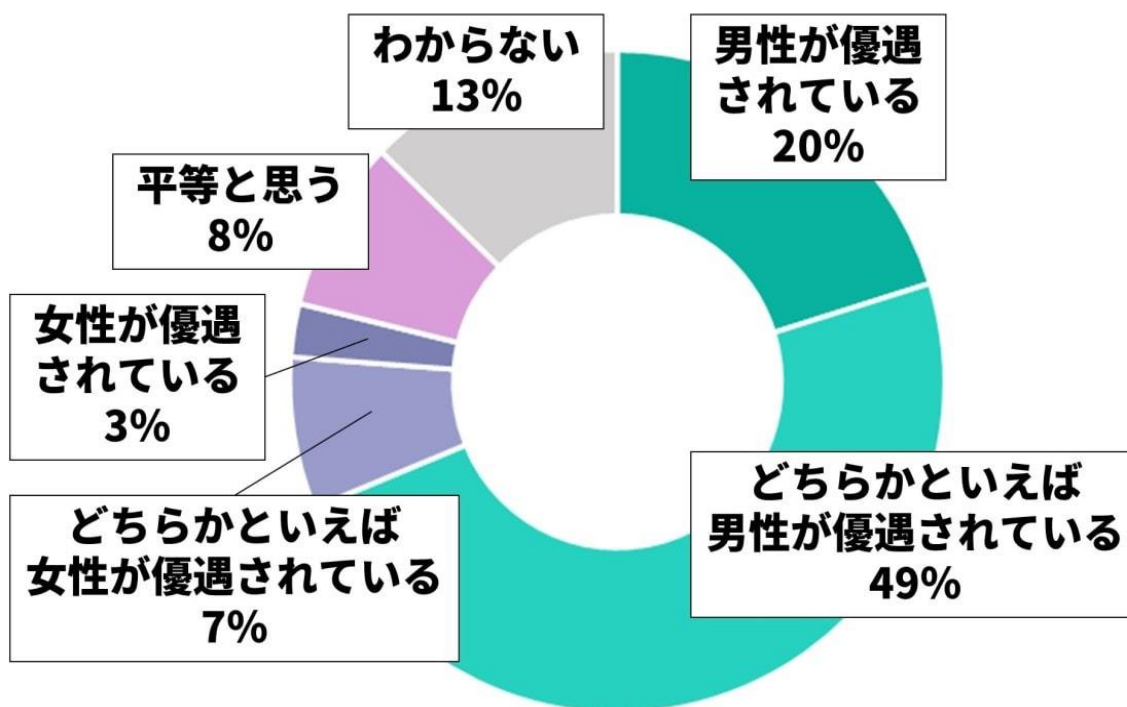
まとめ・参考文献

なぜ女性の活躍が話題になっているのか

- 社会で女性が活躍できる環境整備が進む一方で、まだ課題が多い
- 構造的な課題と意識の課題

Q. 日本社会で男女の地位や権利は平等だと思いますか？

All About



※All About編集部 独自調査 (n=500) をもとに作成

固定観念とはなにか

- 男はこう、女はこうといった思い込みや期待
- 無意識に行動や発言を左右している

例：「男性は仕事、女性は家事」など
昔から存在している考え



社会に根付く固定観念の具体例

- ・ **教育**：男の子には理系、女の子には文系を勧める傾向
- ・ **職場**：女性には補助的な役割を期待されがち（学生の場合：マネージャーなど）
- ・ **メディア**：性別で描かれるキャラクター像が偏る



男女平等を意識しすぎて逆に女性が有利になっていること

- **女性枠の導入**…政治,大学,企業などで、女性の割合を増やすために「女性枠」を設けると、「男性より実力が同じか少し下でも女性を選ばれるのでは？」と感じる人が出てくる。
- **育休制度**…多くの場合、女性が育休を取りやすく、男性は取りづらい雰囲気が残る。制度自体は男女平等だが、実際は女性だけが手厚く見えることも。
- **危険な作業や重労働の免除**…「女性には無理だろう」という理由で軽い作業に回され、結果として負担が少なく、男性だけ重労働になってしまうケース。

女性側の意見

- ・ 本来、不利だった状況を埋めるための措置
- ・ 結局は女性に負担が多い
- ・ 優遇されているように見えても、
逆に生きづらさもある



男性側の意見

- ・ 平等と言いながら不公平に感じる
- ・ 男性も育児や家庭に参加したいのに制度が追いつかない
- ・ 重労働・危険作業が男性に偏る

不公平では？



これらのことを踏まえてどうすることが正解？

- ・ **過度な「女性だけ優遇」を一度見直す**…女性が社会で不利だった歴史を埋めるための制度は重要。しかし、「女性なら誰でも優先される」仕組みは不公平感を生む。



- ・ 女性枠ではなく、「様々な背景を持つ人を増やす枠」に変更する。
- ・ 業績や能力を基準の1つにしつつ、性別の偏りもチェックするという“中間のやり方”が現実的。

これらのことを踏まえてどうすることが正解？

・ **男性も女性も“取りやすい空気”を作る**…制度があっても、男性は育休が取りにくい。女性は「女性だから採用された」と言われるなど、実際は空気や文化が障害になっている。



- ・ 育休を取った男性の評価を下げない。
- ・ 「女性枠」ではなく、男女とも透明な選考基準を作る。
- ・ 性別で役割を固定しない

これらのことを踏まえてどうすることが正解？

- ・ **お互いの負担が見える化する**…「自分の方がしんどい」と思いやすいのは、相手が背負っているものが見えにくいから。



- ・ 家事・育児の時間や負担を可視化する。
- ・ 職場の業務量を客観的に分析する。



それぞれの立場への理解が深まり、“不公平だ”という感情が減る。

「男女どちらも損しない社会」

性別で得したり損したりするのではなく、「一人ひとりが“個人として”実力を発揮しやすい社会」が理想。



女性だから有利でも不利でもない。男性だから重労働・育児できない、のような固定観念がない。性別に関係なく挑戦しやすい環境。

女性から見た女性の活躍

- ・ **自己実現の場の拡大**
(キャリア・家庭・社会貢献など)
- ・ **ロールモデルの存在**
(政治家や起業家として成功した女性)
- ・ **課題認識**
(働き方や家庭との両立などにハードルあり)
- ・ **支援を求める声**
(制度面・周囲の理解・メンタルサポートが重要)



男性から見た女性の活躍

- ・ **共働き社会の進展**：家庭・職場での役割分担の再定義が進む
- ・ **ポジティブな影響**：多様な視点が職場の創造性を高め、成果に繋がる
- ・ **意識の変化**：ジェンダーの固定観念がやや薄れつつある
- ・ **課題**：未だに残る「無意識の偏見」や「昇進への壁」

世間から見た女性の活躍

- ・ **社会的評価の変化**：例)メディアで「女性のリーダー」「専門家」としての露出が増加
- ・ **政策的後押し**：育児支援制度、企業の女性管理職比率向上目標など
- ・ **文化・価値観の転換期**：性別より「個人の能力」で評価する流れ
- ・ **今後の視点**：真の平等達成には「男性の働き方改革」も必要

私たちができること

- ・ 自分の中の当たり前を問い直す
- ・ 会話や話し合いでの偏った発言を見直す
- ・ 多様なロールモデルに触れる
- ・ 異なる性別・価値観の人の意見を尊重する

まとめ

- ・ 固定観念は誰の中にもあるが、気づけば変えられる
- ・ 「性別に関係なく、自分らしく活躍できる社会」を目指す
- ・ 女性が活躍する社会は「誰もが活躍できる社会」への道筋
- ・ 男女が互いに支えあうことで社会全体の活力が高まる